

## 徳島県勝浦町の「ビッグひな祭り」

右城 猛

### 1. まえがき

2月20日(日)から3月20日(日)の1ヶ月間、「第23回ビッグひな祭り」が徳島県の勝浦町で開催されている。期間中4~5万人の見物客が訪れる人気イベントのようであるが、私は家内から聞くまで全く知らなかった。

古くからの友人で、徳島に住んでいる植田夫妻と会って食事をしたと考えていたので、それを兼ねて2月26日に1泊2日の日程で徳島に行ってきた。

### 2. 第23回ビッグひな祭り

徳島県道16号線沿いの勝浦町生名に「道の駅・ひなの里かつうら」がある。ひな人形が飾られている「人形文化交流館」は、道の駅に併設して東側にある。西側にはJAの地元特産市場「よってネ市」がある。



人形文化交流館の中には500段のひな壇が作られ、3万体のひな人形が飾られている。

ひな人形が飾られるのは、毎年、この時期の1ヶ月間だけ。

毎年、日本全国より8千から1万体のひな人形が、供養をしてもらうためにここに贈られてきている。



館内の中央にはピラミット状のひな壇がそびえている。ピラミットの高さは、最初は3.4mであったが、毎年かさ上げされて、現在は8mもの高さになっている。



立派な一松人形も多い。



一般の家庭ではとても買えそうにない立派なひな人形がたくさん飾られている。



江戸後期、明治後期から大正時代などの文化財的価値のある人形も飾られている。



13 時からの大正琴の演奏が始まる前に、女優の水野真紀さんが挨拶をされた。

勝浦町は、夫の後藤田正純衆議院議員の選挙区。この時期には毎年徳島に帰ってきているようである。



地元の「琴の葉会」の皆さんによる大正琴の演奏。「うれしいひな祭り」、「荒城の月」、「サザンカの宿」などの曲の演奏があった。

### 3 . 第 1 0 回おひな様の奥座敷

「人形文化交流館」の中でも勝浦町の名産が販売されていた。名物の「岩屋まんじゅう」(中に栗が入っていて、とても美味しい)を買って

帰ろうとしたところ、「ここから上勝町に向かって 10 分ほど車で走った坂本地区の民家に、ひな人形が飾られています。とても素晴らしいので是非見て帰ってください」と勧められた。

徳島のホテルに入るにはまだ早過ぎると思ったので、勧められるままに行くことにした。



「おひな様の奥座敷」の坂本地区。白い鉄筋コンクリート 3 階建ての建物は、廃校になっている旧・坂本小学校。ここの校庭に車を駐め、坂本トンネルの方に上がって行くと、「おひな街道」があり、沿道の民家にひな人形が飾られている。



孟宗竹に飾られたひな人形



おひな街道





沿道の民家に飾られたひな人形



庭に置かれた人形。雨に濡れると駄目なので毎日片付けている。



ペットボトルに入ったひな人形



庭で遊ぶ子供の人形



下から「おひな様の奥座敷・森本家」に入る道。上の道からも降りてこられる。



100年前のひな人形



100年の歴史を誇る森本家。



琴を弾くひな人形





囲碁をして遊ぶひな人形



枝垂れ梅の下で野点をするひな人形



この家の主の森本さん。6年前より自宅にひな人形を飾り、無料で開放している。毎年、5千～6千人がここを訪れている。

#### 4. ビッグひな祭りの歴史

人形文化交流館の入り口に「ビッグひな祭りの歴史」が紙に書かれて貼ってあった。要約して下記に紹介する。

勝浦町の役場職員の有志 10 人で、「全国に発信できるイベント」として「百段のひな壇をメインとしたひな祭り」を昭和 63 年 4 月に 2 日間開催したのが、ビッグひな祭りの始まり。

当初は千体のひな人形を集めるのにも苦労したが、「ピラミット状のひな壇がユニーク」「人形を贈れば供養してもらえる」ということが話題を呼び、県外からも贈られてくるようになった。

全国的に広がってくると町職員だけの運営は難しくなり、第 4 回からは構成員 50 人からなる「阿波勝浦井戸端塾」で運営を行っている。

現在は、国際交流として 20 数カ国にひな人形を贈っている。国内では「人形の里親」として、個人や全国数十箇所の市町村にひな人形を贈り、交流を深めている。町内においては、「ひな祭りの奥座敷」「各商店街のひな飾り」「ロマン街道のひな飾り」などで盛り上がりを見せている。

自宅を出発する前に、「ビッグひな祭り」をインターネットで検索すると、神社の境内の石段一面にひな人形が飾られた写真を背景にして、「かつうらビッグひな祭り」と書かれたポスターが最初にヒットした。このため、勝浦町に行くまでは、神社の石段に飾られているものと勘違いしていた。

「ビッグひな祭り」と呼ばれるイベントを始めたのは徳島県勝浦町であるが、現在では千葉県勝浦市と長野県須坂市でも開催されている。

勝浦町は「ひな人形の町」として全国的に有名になっている。勝浦町の隣にある上勝町は「葉っぱの町」として、全国的にさらに有名である。

知恵とやる気さえあれば町を活性化できる

という良いお手本である。

## 5．植田夫妻との食事

植田勇二さんとは、徳島に本社がある四国建設建設コンサルタントに勤務していた頃からの付き合いで、もう34年になる。昨年の8月15日に阿波観光ホテルで行われた結婚食事会以来会っていなかった。

ISO(国際標準化機構)の審査員をされているので出張が多いが、この日は自宅にいるということであったので、久し振りに食事を一緒にする約束をしていた。

約束の18時きっかりに奥様の張玉玲さんと一緒にホテルに迎えにきてくれた。

事前に予約を入れてくれていた徳島駅前の寿司店で、酒を飲みながら仕事のことや最近の健康について話をする。歳をとると健康管理についての話題が多くなる。

張さんは、以前よりも一段と美しくなったと感じた。ヘアースタイルを変えたこともあろうが、スマートになって大きく変身していた。

老人病院で介護の仕事に携わっているとのこと。老人の介護は肉体的にきつい仕事である。それ以外に日本語の勉強やヘルパーの資格をとるための勉強もしなくてはならず、それが原因でスマートになったのかも知れない。

食事の後、駅前のカラオケの店で張さんの美声を聞かせてもらうことにする。



私たちも「四季の歌」を家内と一緒に歌う。マイクを握って歌うのは何年ぶりだろうか。「何の歌を歌いますか？」と問われても、歌に興味がないこともあって知っている歌がないので困ってしまう。

[ 2011年2月27日記 ]



カラオケで熱唱する張さんと植田君。張さんの歌唱力はプロ級。